

日本産鳥類記録リスト (9)

日本産鳥類記録委員会*

日本産鳥類記録委員会では活動の一環として、記録が極端に少ない種について、引用可能な文献として公表されたものの調査・収集・整理を行い「日本産鳥類記録リスト」として随時学会誌を通じて公表を行っています。今回はホオジロ科の5種についての調査結果を報告します。なお、この報告は学会による記録公認を意味するものではなく、掲載されている記録の妥当性については未検討ですので、引用などに当たっては、この点に注意してください。また、このリスト内で使用される学名や和名は、日本鳥学会が今後これを採用することを意味しているものではありません。リストに掲載されていない文献記録をご存知の方は、日本産鳥類記録委員会にお知らせください。また、未発表の記録をお持ちの方は、ぜひ、引用可能な文献としての公表をお願いいたします。このリストの趣旨についての詳細は日本鳥学会誌 51(2): 132-133. 「日本産鳥類記録リスト」を参照してください。委員会が過去に公表したリストや活動報告は、学会のホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/osj/>) にて閲覧可能なので、そちらもご覧ください。

55. レンジャクノジロ *Melophus lathamii* (表1)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上1例の記録が確認された(表1)。

記録1(五百沢ら2004)は、沖縄県西表島で記録されたもので、記録された個体の写真とともにそのキャプションとして記録年月日、場所、記録者、記録された個体の年齢、性別と「この個体は脇に縦斑がないこと、頭部が一樣にオリーブ褐色であることから、おそらく成鳥であろう」との記述が掲載されている。この記録は、McWhirter *et al.* (1996)、沖縄野鳥研究会(2002)にも掲載され

ている。McWhirter *et al.* (1996) には、五百沢ら(2004) に記述されていない内容として、この記録が日本初記録であること、西表島の干立で撮影され、記録されたのが1個体であったことが掲載されている。McWhirter *et al.* (1996) は、この記録の出典として吉見(1992)を引用しているが、吉見(1992)には、五百沢ら(2004)と同一の写真と「西表にも稀に飛来する。水田のあぜ道でイネ科の種子を食べていた」との記述のみが掲載されており、記録年月日や記録された場所は記述されていない。吉見(1992)、McWhirter *et al.* (1996)、五百沢ら(2004)のいずれも同定の根拠については記述がない。なお、吉見(1992)と五百沢ら(2004)に掲載されている写真は、同一のものと思われるが写真の左右が逆である。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2004)日本の鳥550 山野の鳥 増補改訂版。文一総合出版、東京。
2. McWhirter DW, Ikenaga H, Iozawa H, Shoyama M & Takehara K (1996) A Check-list of the birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records. Bulletin of the Okinawa Prefectural Museum (22): 33-152.
3. 沖縄野鳥研究会(2002)沖縄の野鳥。新報出版、那覇。
4. 吉見光治(1992)豊かな森の仲間たち。ニライ社、那覇。

56. イワバホオジロ *Emberiza buchanani* (表2)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上1例の記録が確認された(表2)。

記録1(森岡1998)は、石川県舩倉島で記録されたもので、記録年月日、場所、記録者など基本的な情報のほか、記録された個体の形態、種および年齢、性別同定の根拠について詳細な記述が掲

表1. レンジャクノジロ *Melophus lathamii*.

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載、撮影者	出典	関連文献
1	1987/5/27	沖縄県	西表島	成鳥	メス	—	吉見光治	観察、カラー1、撮影	吉見光治	1	2, 3, 4

—: 記述なし・掲載なし。

表 2. イワバホオジロ *Emberiza buchanani*.

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1997.10.25-27	石川県	輪島市 舳倉島	成鳥	オス	—	笠野英明	観察, 撮影	カラー 2, 笠野英明	3	1, 2

—: 記述なし・掲載なし.

表 3. ズアオホオジロ *Emberiza hortulana*.

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1986/10/6	石川県	輪島市 舳倉島	第 1 回 冬羽	—	—	石井照昭	撮影	カラー 1, 石井照昭	6	1, 2, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 12
2	2006.6.4	鹿児島県	大島郡 徳之島町 山県道 629 号線上	第 1 回 夏羽	オス	1	山田文彦	観察, 撮影	モノクロ 2, 山田文彦	14	13

—: 記述なし・掲載なし.

載されている。森岡 (1998) に掲載されている 1997 年 10 月 25 日撮影の本記録 2 枚の写真と同じものが、五百沢ら (2000, 2004) にも掲載されているが、そのうち 1 枚の撮影年月日が 1997 年 10 月 26 日になっている。どちらかが誤記または誤植と思われるが、いずれが正しいのかについては不明である。なお、記録された個体数と亜種についての記述は上記いずれの文献にも掲載されていない。

引用文献 (文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2000) 日本の鳥 550 山野の鳥。文一総合出版, 東京。
2. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2004) 日本の鳥 550 山野の鳥 増補改訂版。文一総合出版, 東京。
3. 森岡照明 (1998) 新しい識別の試み 第 20 回イワバホオジロとズアオホオジロ. *Birder* 12(12): 52-55, 92.

57. ズアオホオジロ *Emberiza hortulana* (表 3)

日本鳥類目録改訂第 6 版では、記録として 1 例が挙げられている。本委員会の調査により、文献上 2 例の記録が確認された (表 3)。なお、本種には現在、亜種が認められていない。

記録 1 (森岡 1998) は、石川県舳倉島で記録されたもので、記録年月日、場所、記録者など基本的な情報のほか、記録された個体の形態、種および年齢同定の根拠について詳細な記述が掲載され

ている。また、記録された状況については石井 (1992) に詳細が記述されており、鳴き声については真木・大西 (2000) に記述がある。この記録は、日本野鳥の会 (1987) に記録された個体の形態の記述とともに「ズアオホオジロの第一回冬羽と思われる」として掲載されたが、日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1987) によって参考記録とされた。しかし、その後、日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1989) によって再検討され「今回新たに公式記録とした種」としてリストに掲載された。ただし、参考記録とした日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1987) も公式記録とした日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1989) も、そのように扱った具体的な理由については、全く記述していない。なお、日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1987) に掲載されている、本記録を含む表 (p. 118 に掲載) は、表題の「観察情報・参考記録」が抜け落ちた状態で印刷されたため、一見「公式記録」として掲載されているように見える。この記録は、日本野鳥の会 (1988)、高野 (1989)、Brazil (1991)、日本野鳥の会石川支部 (1998) にも掲載されているが、記録された個体の性別や個体数に関しては、高野 (1989) が「雄若鳥 1 羽が記録された」、日本野鳥の会石川支部 (1998) が「若鳥 1 羽が観察、撮影された」との記述を掲載しているのみである。また、五百沢ら (2000, 2004) にも同一記録の写真が掲載されているが、日本野鳥の会 (1988) や石井 (1992) に掲載されている写真と

は、左右が逆転している。

記録2(山田・高木 2006)は、鹿児島県徳之島で記録されたもので、記録年月日、場所、記録者など基本的な情報のほか、記録された個体の形態、記録された環境、種および性別、年齢同定の根拠、行動などについて詳細な記述が掲載されている。山田・高木(2006)の本文には、記録された個体数についての記述がないが、英文タイトルから記録された個体が1羽であることが明らかである。また、記録された状況については、山田(2008)に詳細が記述されている。なお、山田・高木(2006)にはモノクロ写真のみが掲載されているが、記録された個体のカラー写真は、日本鳥学会誌55(2)の表紙および山田(2008)に掲載されている。

このほかの記録として、山田(2008)に「後日、全く同時期に沖縄方面でもズアオホオジロが観察されたと知り、1羽での迷行ではなく複数で南西諸島に来ていたことがわかった」との記述が掲載されているが、記録2と同時期に渡来したズアオホオジロについて具体的に記述した文献を確認できなかったため参考として挙げるにとどめる。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. Brazil MA (1991) *The birds of Japan*. Christopher Helm, London.
2. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000)日本の鳥550 山野の鳥。文一総合出版、東京。
3. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2004)日本の鳥550 山野の鳥 増補改訂版。文一総合出版、東京。
4. 石井照昭(1992) 舩倉島に珍鳥を探して。Birder 6(2): 10-11。
5. 真木広造・大西敏一(2000) 決定版日本の野鳥590。平凡社、東京。
6. 森岡照明(1998) 新しい識別の試み 第20回イワバホオジロとズアオホオジロ。Birder 12(12): 52-55, 92。

7. 日本野鳥の会(1987) フィールドノート野鳥情報 観察記録。野鳥 52(3): 30-31。
8. 日本野鳥の会(1988) 日本に舞い降りた野鳥たち。野鳥 53(4): 10-21。
9. 日本野鳥の会石川支部(編)(1998) 石川県の鳥類。石川県環境安全部自然保護課、金沢。
10. 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1987) 野鳥情報・観察記録 1986.8-1987.12。Strix 6: 110-118。
11. 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1989) 日本初記録の野鳥。野鳥 54(1): 38-43。
12. 高野伸二(1989) フィールドガイド日本の野鳥 増補版。日本野鳥の会、東京。
13. 山田文彦(2008) 釣り人の前に現れた、国内2例目の珍ホオジロ。Birder 22(6): 46。
14. 山田文彦・高木昌興(2006) 鹿児島県徳之島におけるズアオホオジロ *Emberiza hortulana* 雄夏羽の観察。日鳥学誌 55: 114-116。

58. ゴマフスズメ *Passerella iliaca* (表4)

日本鳥類目録改訂第6版では、記録として2例が挙げられており、これらの記録は亜種ゴマフスズメ *P. i. unalaschcensis* とされている。本委員会の調査により、文献上2例の記録が確認された(表4)。

記録1(山階 1936)は、栃木県日光市で記録されたもので、記録された経緯と記録された個体の形態、種・亜種同定の根拠などが掲載されている。山階(1936)によれば、この記録の個体は1935年11月3日に斎藤勇三郎氏によってカスミ網で捕獲され、その後、神山茂一郎氏、高畑庫之祐氏によって飼育され、1935年12月7日古川龍城氏により山階芳麿氏に同定が依頼されたものである。この個体は山階氏が入手したときには生存しており、すり餌について飼育されていた(山階 1964)。記録された個体の亜種同定について山階(1936)は「今回の鳥を記載に比較して見ると先づ *P. i. unalaschcensis* か *P. i. insularis* の何れか、特に恐らく

表4. ゴマフスズメ *Passerella iliaca*.

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載、撮影者	出典	関連文献
1	1935/11/3	栃木県	上都賀郡 日光町 大字 山久保長峰	成鳥	オス	1	斎藤 勇三郎	捕獲、 飼育	モノクロ2	17	1, 2, 8, 15, 18
2 P	1985.1-2	北海道	室蘭市 本輪西	—	—	—	林大作	撮影	カラー1, 林大作	7	2, 5, 6, 9, 10, 16

—: 記述なし・掲載なし。

P: 写真と最小限の記述(種名, 記録地, 記録年月, 記録者など)のみ。

insularis と考えられる。されば北米産の標本を入手して直接比較し得る迄 *Passerella iliaca insularis* として置く」と記述しており、和名を「ゴマフスズメ」とした。日本鳥学会(1942, 1958)は、これを受けて亜種 *insularis* を採用し、亜種和名をゴマフスズメとしている。その後、山階(1964)は、この個体の亜種同定を再検討し *P. i. unalaschcensis* に訂正した。これを受けて日本鳥学会(1974)は、亜種を *unalaschcensis* に変更したが、亜種和名については変更せずゴマフスズメのままとしている。山階(1936)は、記録された個体が捕獲されたものであることと本種が日本に輸入された事例を聞いたことがないのを理由に「飼鳥の逸走したものでなく、迷鳥として日本鳥類目録に追加せらるべきものなる事は疑ひないと思ふ」と記述している。記録された場所について、山階(1964)では「宇山久保長峰」、内田(1972)と清棲(1978)では「久保長峰」と記されているが、いずれも誤記または誤植である。記録1は、日本初記録として Austin & Kuroda (1953), Brazil (1991) など多数の文献に掲載されているが、いずれの文献にも山階(1936)の記述以外の内容は掲載されていない。なお、記録された個体の標本(仮剥製)は、現在、千葉県山階鳥類研究所に保管されている(標本番号 YIO-48625)。該当標本のラベルに記されている学名は、現在も *Passerella iliaca insularis* となっている。また、ラベルに記されている年月日は捕獲された時のもので、死亡年月日は記されていない。

記録2(河井ら 2003)は、北海道室蘭市で記録されたもので、記録年月と場所のみが掲載されている。この記録は、北海道新聞社(2002)にも掲載されており、記録された個体について「給餌台や地上でヒマワリの種子を食べていた」との記述がある。記録2は、Brazil (1991), 藤巻(2000), 五百沢ら(2000, 2004) など多数の文献に掲載されているが、いずれも記録年月や場所のみが掲載されている。記録の出典として Brazil (1991) は藤巻・小堀(1986), 藤巻(2000) は山田(1989) を挙げている。なお、和泉(1985)には、記録2と同一と類推される個体について、記録された経緯や個体数が1羽であることなどが記録環境や個体の写真とともに掲載されている。しかし、和泉(1985)には、記録された年と場所の記述が両方とも欠けているため、記録2と同一記録であると確定することができない。記録2は、日本鳥類目録改訂第6版で記録1と同様に亜種 *P. i. unalaschcensis* に分類されているが、同定の根拠や経緯については、

Morioka (2000) にも記されておらず、ほかにそれについて記述した文献も確認できていない。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. Austin OL & Kuroda N (1953) The birds of Japan: Their status and distribution. Bull. Misc. Comp. Zool. Harvard **109**: 279-613.
2. Brazil MA (1991) The birds of Japan. Christopher Helm, London.
3. 北海道新聞社(編)(2002) 北海道の野鳥. 北海道新聞社, 札幌.
4. 和泉千寿(1985) ゴマフスズメがやってきた. 野鳥 **50**(6): 6.
5. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000) 日本の鳥 550 山野の鳥. 文一総合出版, 東京.
6. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2004) 日本の鳥 550 山野の鳥 増補改訂版. 文一総合出版, 東京.
7. 河井大輔・川崎康弘・島田明英・諸橋 淳(2003) 北海道野鳥図鑑. 亜璃西社, 札幌.
8. 清棲幸保(1978) 増補改訂版 日本鳥類大図鑑 I. 講談社, 東京.
9. 藤巻裕蔵(2000) 北海道鳥類目録 改訂2版. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室, 帯広.
10. 藤巻裕蔵・小堀煌治(1986) 新版 北海道の野鳥. 北海道新聞社, 札幌.
11. Morioka H (2000) Taxonomic notes on passerine species. In: Committee for check-list of Japanese birds (ed.) *Check-list of Japanese birds sixth revised edition*: 291-325. The Ornithological Society of Japan, Obihiro.
12. 日本鳥学会(1942) 日本鳥類目録改訂三版. 日本鳥学会, 東京.
13. 日本鳥学会(1958) 日本鳥類目録改訂四版. 日本鳥学会, 東京.
14. 日本鳥学会(1974) 日本鳥類目録改訂第5版. 学習研究社, 東京.
15. 内田康夫(1972) 日本迷鳥録 25 ゴマフスズメ *Passerella iliaca*. 朝日 = ラルス週刊世界動物百科(90): 2.
16. 山田良造(1989) 北海道に舞い降りた迷鳥たち(2). 北海道野鳥だより(77): 4-5.
17. 山階芳麿(1936) *Passerella iliaca insularis* Ridway 本州にて捕獲せらる. 鳥 **9**: 119-123.
18. 山階芳麿(1964) ゴマフスズメの亜種名訂正. 鳥 **18**(82): 126-127.

59. ウタスズメ *Melospiza melodia* (表5)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上2例の記録が確認された(表5)。

記録1(高田 2001)は、北海道根室市で記録されたもので、記録年月日と場所、記録者のみが記

表 5. ウタスズメ *Melospiza melodia*.

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1 D	1994/10/31	北海道	根室市 酪陽	—	—	—	青木則幸	—	—	3	1, 2
2	2007.5.5	山口県	見島宇津	—	不明	1	前田崇雄, 米森美州, 波多野邦彦・ 前田敦子, ほか	観察, 撮影	カラー 2, 米森美州	1	

—: 記述なし・掲載なし.

D: 最小限の記述 (種名, 記録地, 記録年月, 記録者など) のみ.

述されている。この記録は根室市教育委員会 (2005) にも掲載されているが、高田 (2001) と同じ記述のみが掲載されている。また、前田ら (印刷中) は、この記録について、写真が撮影されていないこと、観察された個体の特徴が本種のカナダ西部産の亜種グループに類似していたことなどを直接観察者である青木則幸氏からの私信として掲載している。

記録 2 (前田ら 印刷中) は、山口県見島で記録されたもので、記録年月日、場所、記録者など基本的な情報のほか、記録された個体の形態、記録された環境、種および亜種同定の根拠、行動などについて詳細な記述が掲載されている。また、前田ら (印刷中) は、記録された個体の亜種について *M. m. kenaiensis* 又は *M. m. caurina* のいずれかに近いとしている。

引用文献 (文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 前田崇雄・米森美州・池長裕史 (印刷中) 山口県見島におけるウタスズメ *Melospiza melodia* の観察記録. 日鳥学誌 57. [印刷中]
2. 根室市教育委員会 (2005) 根室市鳥類生息調査報告書. 根室市教育委員会, 根室.
3. 高田令子 (2001) 根室支庁管内鳥類リスト. 根室市博物館開設準備室紀要 (15): 95-114.

60. チャガシラヒメドリ *Spizella passerina*

日本鳥類目録改訂第 6 本文には掲載されておらず、Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上 1 例の記録が確認されたが、この記録については、ミヤマシトド *Zonotrichia leucophrys* を誤同定したものであることが指摘されており、出典 (高野 1981) から後に記述が削除されている。したがって、表

は掲載しない。

記録 1 (高野 1981) は、群馬県片品村で記録されたもので「群馬県片品村の林で、1970 年 10 月 24 日に平田俊昭氏らによって、1 羽観察、撮影されている」との記述とともに「1977.10.14 群馬県片品村 平田俊昭」とキャプションの記されたカラー写真 1 枚が掲載されている。記録日の不整合については、どちらかが誤植または誤記であると思われるが、発行当時に配布された訂正表にも記述がなく、どちらが正しいのかは不明である。この記録は、高野 (1980a) にも掲載されており「1977 年 10 月に東京農工大学野鳥研究会によって群馬県片品村で一羽観察、撮影されている。カラースライドによれば本種と思われる。ただし本種の場合もよく似た種がたくさんある」と記述されている。また、高野 (1980a) を基に作成、出版された高野 (1980b) にも本種の記録として「1977 年 10 月、群馬県片品村」との記述がある。しかし、上記、高野 (1981) の記述と写真は、1980 年 11 月 25 日発行の初版にのみ掲載されており、1982 年 2 月 25 日発行の初版第 2 刷以降では削除されている。同様に高野 (1980b) の記述も 1983 年 4 月 15 日発行の改訂版第 1 刷では削除されている。高野 (1981) の初版第 2 刷、高野 (1980b) の改訂版は、いずれも記録削除の理由について記述していない。また、高野 (1982) は、本種について「日本への渡来記録はない」と記述している。その後、この記録について、バーダー編集部 (1993) はチャガシラヒメドリに関する文中で「1977 年 10 月に群馬県片品村で撮影された、本種とされている写真は、ミヤマシトドのものである」と記述している。ただし、ミヤマシトドであると同定された根拠は示していない。なお、記録 1 は、Brazil (1991) によってミヤマシトドの記録として掲載さ

れており、記録年月日は1977年10月14日となっている。Brazil (1991) は、この記録の出典として高野 (1981) を引用しているが、高野 (1981) は該当の記録をミヤマシトドとして掲載していない。また、記録1は、日本鳥類目録改訂第6版本文でもミヤマシトドの記録として掲載されている。

引用文献

バーダー編集部 (1993) 次に出るのはこの鳥だ [北米の鳥編]。Birder 7(7): 14-19, 77.

Brazil MA (1991) *The birds of Japan*. Christopher Helm, London.

高野伸二 (1980a) 識別講座 66 ホオジロ科の鳥の見分け方 (3)。野鳥 45(4): 34-37.

高野伸二 (1980b) 野外識別ハンドブック。日本野鳥の

会、東京。

高野伸二 (編) (1981) カラー写真による日本産鳥類図鑑。東海大学出版会、東京。

高野伸二 (1982) フィールドガイド日本の野鳥。日本野鳥の会、東京。

この報告をまとめるにあたり、記録内容の確認などに協力していただきました藤巻裕蔵氏と文献の提供をしていただいた平野賢次氏、真野徹氏、二村一男氏に、心より御礼申し上げます。

* 日本産鳥類記録委員会：梶田 学・亀谷辰朗・池長裕史・金井 裕・川路則友・西海 功・平岡 考・柳澤紀夫